

J.LEAGUE NEWS



編集・発行
 社団法人日本プロサッカーリーグ
 ホームページ <http://www.j-league.or.jp>

スポーツで、もっと、幸せな国へ。Jリーグ百年構想

Vol. **174**

31 Aug. 2010



リーグ戦通算入場者 1億人達成

各地のスタジアムに数多くのファン・サポーターが集い、真夏の熱い戦いを盛り上げる

J1・J2リーグ戦の通算入場者が、1億人を超えた。J1は第17節第2日、J2は第21節第2日の8月8日、1993年5月15日にJリーグが開幕して以来、1999シーズンの1・2部制導入を経て、合計8,055試合で達成した。リーグ戦はJ1、J2とも中盤の戦いに突入り、白熱した首位争いなど、各チームが熱い戦いを演じている。Jリーグは「夏休みはJリーグへ行こう!」を合言葉に「HOTサマーアドベンチャー」と銘打ち、Jリーグ37クラブのホームスタジアムで夏にちなんださまざまなイベントなども実施。家族で、友人同士で、それぞれに熱狂のスタジアムで、夏休みの思い出を心に刻んだ。(3ページに関連記事)

J.LEAGUE OFFICIAL SPONSORS



J.LEAGUE 100 YEAR VISION PARTNER



LEAGUE CUP SPONSOR



SUPER CUP SPONSOR



EQUIPMENT SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL SUPPLIER



J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



「足元を固め、基盤強化を図る」

大東和美 Jリーグチェアマン指針表明

大東和美 Jリーグチェアマンが8月17日の理事会後の記者会見で、今後の指針を表明した。トップリーグ、トップ選手のレベルアップ、リーグ全体の基盤強化を、早急に取り組むべき二つのポイントとして挙げた。



指針を表明した大東チェアマン

揺るぎない基盤

Jリーグは1993年のスタート時の10クラブから37クラブにまで拡大し、今後は40クラブにまでその数を増やそうとしています。この間に、全国のJクラブやJリーグ事務局の努力により、有形無形の価値が創出され、仲間が増え、世界でも有数の素晴らしいプロサッカーリーグとして成長しました。

一方で、クラブの経営問題、選手育成、スタジアム整備などさまざまな課題が表面化しているのも事実です。これらは、それぞれが突発的な事象として起こったものではなく、Jリーグの拡大に伴い少しずつ蓄積された課題が表に出てきたものと考えます。

過去3代のチェアマンがJリーグの発展拡大に尽力しました。4代目チェアマンである私の役

割は、Jリーグの理念に基づき、足元を固め、基盤強化を図ることではないかと考えています。揺るぎない基盤があってこそ、さらなる発展が可能になると思っています。

J1のレベルアップに全力

私が、早急に取り組まなければならないと考えるポイントは二つあります。

一つ目はトップリーグ、トップ選手のレベルアップです。日本サッカー協会(JFA)の2005年宣言ともリンクしますが、日本代表の強化は、Jリーグの重要なミッションです。そのためには、トップカテゴリーであるJ1の試合レベルが世界の強豪国のリーグに並ぶものにならなくてはなりません。J1のレベルアップを図ることができれば、必然的にJ2のレベルも上がります。そのためには、Jクラブアカデミーのさらなる充実が必須であることは言うまでもありません。

私は、トップリーグであるJ1のレベルアップに全力を尽くしていきます。

そして、レベルアップするからにはプレイヤーのステータスも上げて

いかなければなりません。私は、プロサッカー選手になることが、子どもたちの憧れの職業の一番になってほしいと考えています。そのためには、年俵アップも含め、トップレベルの選手の地位がより向上し、サッカー選手という職業が将来に夢を持てる存在になる必要があります。

JFAの小倉純二会長もJリーグの活性化が最も重要だとおっしゃっています。JFAとは、日本サッカーの目指す技術的な課題の洗い出し、40クラブになったときのJ2とJFLの入れ替えなどさまざまな課題について、対話を重視しながら一体になって取り組んでいきたいと考えています。

リーグ全体の基盤強化

二つ目は、リーグ全体の基盤を強化すること

です。

そのために、まずはクラブライセンス制度の整備に全力を傾けます。この制度の意義は、すべてのチームがシーズンを最後まで戦えるように競技の公平性を担保することです。Jクラブの最低限必要なレベルを設定することで、ひいてはトップクラスのレベルをさらに引き上げていくことにつながっていきます。ライセンス制度は2011年には完成させ、13年のシーズン開幕に向けて運用を開始します。

ライセンス制度の導入に合わせて、リーグのガバナンスのあり方についても見直しをしたいと考えています。40クラブの体制を視野に入れて、理事会や実行委員会の場で、今まで以上に積極的に意見を吸い上げ、議論を深めていけるような仕組みを構築していきます。特にリーグとクラブの関係強化には注力していきたいと考えています。

リーグの発展を支える事業の仕組みについても、見直しが必要な時期にきています。Jリーグは20年という短い期間で、クラブ数が設立時の約4倍に増えようとしています。クラブ数の拡大という内部環境の変化と、経済やメディア環境など外部環境の変化に、よりスピーディーに適応していく必要があると考えています。プロリーグとして、環境の変化に対応した、より収益性と安定性の高い仕組みの構築を図っていきます。

「世界に伍するJリーグ」

これらの方針のもとに、事務局に対して課題の洗い出しについて指示をしました。その後は、プライオリティーをつけ、スピードを上げてさまざまな施策に着手していきたいと考えています。

また、スポーツによって豊かな社会を創造するという「Jリーグ百年構想」をさらに推進することによって、地域に根差し、人々に愛されるクラブづくりを継続していきます。

チェアマン就任時の記者会見で申し上げましたように、私のモットーは「ロマンとそろばん」です。子どもたちの夢の職業であり続けると同時に、盤石でぶれない理念に基づく経営戦略を併せ持つ、あらゆる面において「世界に伍するJリーグ」になるために、さらなる成長を目指します。



Jリーグ リーグ戦(J1・J2) 通算入場者数 1億人達成

8月8日に開催された2010 JリーグのJ1
リーグ戦第17節第2日、および J2リーグ戦第
21節第2日に、1993年にスタートしたリーグ戦

(J1・J2)の通算入場者数が1億人を達成
した。

93年に10チームの参加で始まったリーグ戦
は、12チームに増えた
翌1994シーズンに1試
合平均入場者が、過去
最高となる1万9598人
を記録。その後、しばら
く入場者数は下降線を
たどったが、2001シー
ズンから翌年に迫った

2002 FIFAワールドカップ日本／韓国の影響
もあり上昇へ転じた。1999年の1・2部制導入
により J2も誕生し、入場者数の増加へ拍車が
かかった。

J1の平均入場者は2007シーズン以降、1
万9000人台をキープ。今シーズンは8月8日の
時点で J1、J2とも昨シーズンの平均を上回る
ペースでファン・サポーターがスタジアムへ足を
運んでいる。魅力あふれる試合の実現、スタジ
アム整備、ホスピタリティーの充実などで、今後
もさらなる入場者数増加を目指す。

大会年度	リーグ戦 年度別入場者数 ※チャンピオンシップ、入れ替え戦は含まず		J1		J2	
	試合数	入場者数	試合数	入場者数	試合数	入場者数
1993	180	3,235,750	180	3,235,750		
1994	264	5,173,817	264	5,173,817		
1995	364	6,159,691	364	6,159,691		
1996	240	3,204,807	240	3,204,807		
1997	272	2,755,698	272	2,755,698		
1998	306	3,666,496	306	3,666,496		
1999	420	3,625,222	240	2,798,005	180	827,217
2000	460	3,996,373	240	2,655,553	220	1,340,820
2001	504	5,477,137	240	3,971,415	264	1,505,722
2002	504	5,734,607	240	3,928,215	264	1,806,392
2003	504	6,248,414	240	4,164,229	264	2,084,185
2004	504	6,455,867	240	4,551,695	264	1,904,172
2005	570	7,717,573	306	5,742,233	264	1,975,340
2006	618	7,596,056	306	5,597,408	312	1,998,648
2007	618	7,873,314	306	5,838,771	312	2,034,543
2008	621	8,126,633	306	5,899,063	315	2,227,570
2009	765	8,756,312	306	5,852,705	459	2,903,607
2010	341	4,206,049	153	2,932,218	188	1,273,831
合計	8,055	100,009,816	4,749	78,127,769	3,306	21,882,047

※2010年8月8日時点

大東和美 Jリーグチェアマン コメント

1993年5月15日、ヴェルディ川崎と横浜マリノスによる Jリーグ開幕戦から18年、本
日、リーグ戦(J1・J2)通算入場者数が1億人を達成いたしました。これも、全国のファン・
サポーター、ホームタウン関係者、クラブスポンサー・支援企業の皆様、そしてスタジアムに
集った1億の感動を全国に伝えてくださった報道関係者の皆様、Jリーグを支えてくださる
全ての皆様のご支援・ご声援によるものです。心より感謝申し上げます。

お客様の声援は、確実にプレーする選手を勇気づけてくれます。勝利した日、健闘むなし
く敗れた日、シーズン終盤の肌寒い日、そして今日のような炎天下。ホームで、またアウェイ
の地で、スタジアムで皆様からいただく声は、われわれ Jリーグの財産です。

1993年5月に生まれた熱狂は、1年後も、10年後も、そして100年後へとつながって
いきます。今後さらに2億、3億の皆様にも愛されるリーグになるため Jリーグ、Jリーグ各クラ
ブ、そして選手が一つとなり素晴らしいゲームをつくっていくことを約束いたします。

(2010年8月8日)

スルガ銀行チャンピオンシップ 2010 TOKYO

大会

FC東京が日本のチームとして初優勝を飾る



南米の強豪を破って国際タイトル獲得の歓喜を味わう

2009 Jリーグヤマザキナビスコカ
ップに優勝したFC東京と、南米のコパ
・スタメリカーナ2009を制したりガ・デ
・キト(エクアドル)の対戦となった「スルガ
銀行チャンピオンシップ 2010 TOKYO
Jリーグヤマザキナビスコカップ／コパ
・スタメリカーナ 王者決定戦」が8月4日、
国立競技場に1万9423人の入場者を
集めて行われた。試合は2-2のスコア
で90分間を終え、大会規定によりPK方
式の決着となり、4-3でFC東京が勝
利。2008年に始まったこの大会で、初

めて日本のチームが優勝を飾った。

FC東京は1-2のスコアで迎えた後
半ロスタイム1分、FW大黒将志が巧み
なシュートで起死回生の同点ゴールを決
めた。PK戦ではGK権田修一が相手の
最初のキッカーのシュートをストップす
る活躍で勝利に貢献。「ピッチに立った選
手が個人としても、チームとしても、血と
なり肉となるような貴重な経験」(城福
浩監督)を積んだだけでなく、南米の強
豪を相手に国際タイトルを獲得するとい
う栄誉も手にした。

イベント

「キャノン Jリーグミュージアム 2010 in OSAKA」に協力

Jリーグは、Jリーグオフィシャルスポンサーで
あるキャノンマーケティングジャパン株式会
社が主催する「キャノン Jリーグミュージアム
2010 in OSAKA」(8月5~25日、会場：キャ
ノンプラザ梅田)と「名古屋でも写真応援メッ
セージを大募集!!」(8月14~26日、会場：キャ
ノンデジタルハウス名古屋)に協力した。今年
は、4回目の開催となった大阪に加え、名古屋
でも初となる写真イベントが開催された。

大阪会場では、関西4クラブを中心に2010

シーズン前半戦を振り返ったほか、ファン・サポ
ーターが選んだベストプレーヤーなど約100点
の写真を展示。そのほかにも、「写真応援メッ
セージを送ろう!!」企画や、アンケートに答えると
豪華プレゼントが当たる企画も実施された。名
古屋会場でも「写真応援メッセージを送ろう!!」
コーナーを中心に、名古屋グランパス、FC岐阜
などの2010シーズン前半戦を振り返る写真を
展示。多くの人々が来場し、夏休みのひとときを
楽しんでいった。



大阪会場に展示されたファン・サポーターの写真

実行委員選任について

Jリーグは、8月10日に開催した臨時理事会において、鹿島アントラーズの実行委員を大東和美氏から井畑滋氏に変更することを承認した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
鹿島アントラーズ	大東 和美 (株)鹿島アントラーズ・エフ・シー 前代表取締役社長	井畑 滋(いばた しげる) (株)鹿島アントラーズ・エフ・シー 代表取締役社長

理事選任について

Jリーグは、7月25日の日本サッカー協会理事会を経て、8月10日にJリーグ臨時理事会、総会を開催し、同協会の常務理事 田中道博氏、技術委員長 原博実氏、審判委員長 松崎康弘氏をJリーグ理事に選任した。

理事・監事			
役職	氏名	年齢	所属
※ チェアマン	大東 和美 (おおひがし かずみ)	61	(社)日本プロサッカーリーグ
専務理事	中野 幸夫 (なかの ゆきお)	55	(社)日本プロサッカーリーグ
常務理事	佐々木 一樹 (ささき かずき)	58	(社)日本プロサッカーリーグ
理 事	海野 一幸 (うみの かずゆき)	64	(株)ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 代表取締役社長
※ 理 事	金森 喜久男 (かなもり きくお)	61	(株)ガンバ大阪 代表取締役社長
理 事	武田 信平 (たけだ しんぺい)	60	(株)川崎フロンターレ 代表取締役社長
※ 理 事	橋本 光夫 (はしもと みつお)	61	(株)三菱自動車フットボールクラブ 代表取締役社長
※ 理 事	福島 義広 (ふくしま よしひろ)	59	(株)名古屋グランパスエイト 代表取締役専務
※ 理 事	本谷 祐一 (もとたに ゆういち)	56	(株)サンフレッチェ広島 代表取締役社長
理 事	風間 八宏 (かざま やひろ)	48	(有)アハト風間/筑波大学サッカー部 監督
理 事	傍士 銃太 (ほうじ せんた)	54	(財)日本経済研究所 専務理事
※ 理 事	宮 裕 (みや ゆたか)	55	有限責任 あずさ監査法人 パートナー・公認会計士
理 事	武藤 泰明 (むとう やすあき)	55	早稲田大学スポーツ科学学術院 教授
理 事	村井 満 (むらい みつる)	51	(株)リクルートエージェント 代表取締役社長
※ 理 事	コーコ ゼッターランド	41	(有)オフィスプロンズ 取締役社長
理 事	田中 道博 (たなか みちひろ)	52	(財)日本サッカー協会 常務理事
※ 理 事	原 博実 (はら ひろみ)	51	(財)日本サッカー協会 理事/技術委員長(強化)
理 事	松崎 康弘 (まつざき やすひろ)	56	(財)日本サッカー協会 理事/審判委員長
監 事	眞壁 潔 (まかべ きよし)	48	(株)湘南ベルマーレ 代表取締役
※ 監 事	野宮 拓 (のみや たく)	34	日比谷パーク法律事務所 パートナー弁護士

太字：2010年8月10日選任

※印：新任

参与選任について

Jリーグは、8月17日に開催した理事会において、犬飼基昭氏の日本サッカー協会会長退任に伴い、同氏を参与に選任した。

参与
犬飼 基昭:前財団法人 日本サッカー協会 会長 Jリーグ実行委員(浦和レッズ):2002年7月～06年7月(在任期間4年) Jリーグ理事:2004年6月～06年7月(在任期間2年1カ月) Jリーグ専務理事:2006年7月～08年7月(在任期間2年)

「2010 Jリーグアウォーズ」開催概要 決定

Jリーグは、Jリーグの年間表彰式「2010 Jリーグアウォーズ」を、12月6日(月) 18:30(予定)より MEETS PORT JCB ホール(東京都文京区)にて下記のとおり開催する。Jリーグアウォーズは、今シーズンのJリーグで活躍した選手・監督、クラブ、審判などの功績をたたえ、多くの関係者、ファン・サポーターと共に1年を締めくくる場となる。詳細については、決定次第発表する。

Jリーグアウォーズ 開催概要

- 開催日 2010年12月6日(月)
- 会 場 MEETS PORT JCBホール
(東京都文京区後楽1-3-61 東京ドームシティ内)
- 内 容 表彰式 18:30～20:15(予定)
パーティー 20:30～21:30(予定)

京都サンガF.C.のホームタウン広域化について

Jリーグは、8月17日に開催した理事会において、京都サンガF.C.がホームタウンを広域化し、従来の京都市に加えて、2010年8月17日より宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、京田辺市も新たにホームタウンとすることを承認した。

ホームタウン	変更前	京都市
	変更後	京都市、宇治市、城陽市、向日市、長岡京市、京田辺市
理 由	京都市の京都市西京極総合運動公園陸上競技場兼球技場をホームゲーム本拠地と定めており、練習場やクラブハウスが京都府南部の城陽市に位置することから、ホームタウン活動をより一層活性化させていくためには、京都府南部地域を中心とした市町村とのさらなる連携が必要不可欠のため。	

※太字は広域化された市

株式会社ブリヂストン、株式会社サガン・ドリームス共催「特別講演会」を後援

Jリーグは、8月17日に開催した理事会において(株)ブリヂストンと(株)サガン・ドリームス共催の「特別講演会」を後援することを決定した。今年で3回目となる本講演会は、地域密着を掲げるクラブがクラブスポンサーでもある地元の企業と共に、より一層の地域貢献を図ることを目的に実施している。9月6日(月)に行われる今回は、アテネオリンピック2004 出場のU-23 日本代表監督を務めた山本昌邦氏が「人を育てる」をテーマに講演を行う。

第1回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 デベロップカップ2010、第7回中日本インターシティカップ(U-15)、第3回JCYインターシティカップU-15サッカー北日本大会を後援

Jリーグは、8月17日に開催した理事会において、今年より日本クラブユースサッカー連盟が主催する「第1回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 デベロップカップ2010」を後援することを承認した。また、昨年に引き続き、同連盟が主催する「第7回中日本インターシティカップ(U-15)」および「第3回JCYインターシティカップU-15サッカー北日本大会」の後援についても承認した。

これらの大会は、日本クラブユースサッカー選手権大会に出場できなかったチームが参加できる競技会として位置づけられ、日本の将来を担うユース年代の少年たちのサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的として開催されている。

第14回電動車椅子サッカー関東大会を後援

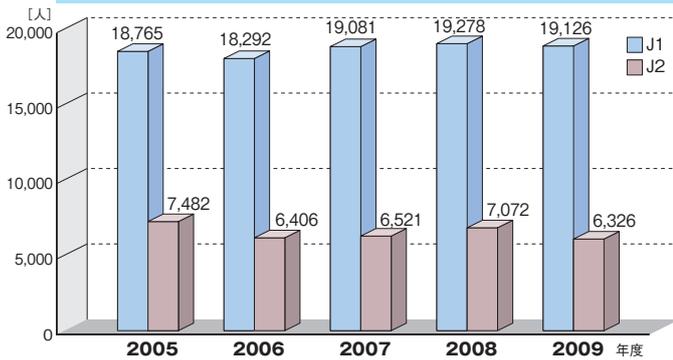
Jリーグは、8月17日に開催した理事会において「第14回電動車椅子サッカー関東大会」(主催:関東ブロック電動車椅子サッカー協会)を後援することを決定した。この大会は、日本における電動車椅子サッカーの普及振興、技術向上を図ることを目的に開催されている。

2009年度Jクラブ情報開示

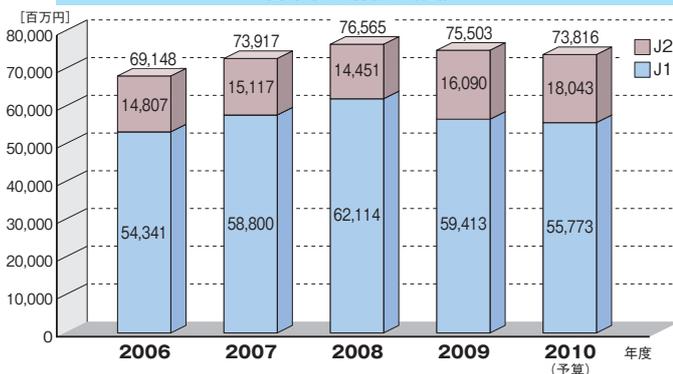
1試合当たりの入場者数

2008年度平均入場者数		2009年度平均入場者数	
【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)		【J1】(ホーム各17試合、全体306試合)	
札幌	14,547	山形	12,056
鹿島	19,714	鹿島	21,617
浦和	47,609	浦和	44,210
大宮	10,714	大宮	16,247
千葉	14,084	千葉	14,730
柏	12,308	柏	11,738
F東京	25,716	F東京	25,884
東京V	14,837	川崎F	18,847
川崎F	17,565	横浜FM	22,057
横浜FM	23,682	新潟	33,446
新潟	34,490	清水	17,935
清水	16,599	磐田	13,523
磐田	15,465	名古屋	15,928
名古屋	16,555	京都	11,126
京都	13,687	G大阪	17,712
G大阪	16,128	神戸	13,068
神戸	12,981	広島	15,723
大分	20,322	大分	18,428
18チーム平均	19,278	18チーム平均	19,126
【J2】(ホーム各21試合、全体315試合)		【J2】(全体459試合) ホーム試合数	
仙台	14,080	札幌	10,207 26
山形	6,273	仙台	12,951 26
水戸	3,044	水戸	2,673 25
草津	4,215	栃木	4,706 25
横浜FC	6,793	草津	4,330 26
湘南	5,994	東京V	5,521 26
甲府	10,354	横浜FC	3,535 26
岐阜	3,745	湘南	7,273 26
C大阪	10,554	甲府	11,059 25
広島	10,840	富山	3,740 25
徳島	3,862	岐阜	4,302 25
愛媛	3,704	C大阪	9,912 25
福岡	10,079	岡山	6,162 25
鳥栖	7,261	徳島	4,073 26
熊本	5,279	愛媛	3,694 26
15チーム平均	7,072	福岡	7,763 25
		鳥栖	5,939 26
		熊本	6,006 25
		18チーム平均	6,326

1試合当たりの入場者数平均の推移



営業収入総額の推移



クラブ別売上高規模分布表

年度	2009年度(平成21年度)					2008年度(平成20年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
10億円未満	0	0.0%	12	66.7%	12	33.3%	0	0.0%	9	60.0%	9	27.3%
10億円以上20億円未満	2	11.1%	5	27.8%	7	19.4%	1	5.6%	5	33.3%	6	18.2%
20億円以上30億円未満	6	33.3%	1	5.6%	7	19.4%	5	27.8%	1	6.7%	6	18.2%
30億円以上40億円未満	6	33.3%	0	0.0%	6	16.7%	6	33.3%	0	0.0%	6	18.2%
40億円以上	4	22.2%	0	0.0%	4	11.1%	6	33.3%	0	0.0%	6	18.2%
合計クラブ数	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%	18	100.0%	15	100.0%	33	100.0%

クラブ別経常利益規模分布表

年度	2009年度(平成21年度)					2008年度(平成20年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円未満	5	27.8%	10	55.6%	15	41.7%	6	33.3%	7	46.7%	13	39.4%
0円以上200万円未満	3	16.7%	5	27.8%	8	22.2%	6	33.3%	5	33.3%	11	33.3%
200万円以上400万円未満	4	22.2%	3	16.7%	7	19.4%	1	5.6%	3	20.0%	4	12.1%
400万円以上	6	33.3%	0	0.0%	6	16.7%	5	27.8%	0	0.0%	5	15.2%
合計クラブ数	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%	18	100.0%	15	100.0%	33	100.0%

クラブ別純資産規模分布表

年度	2009年度(平成21年度)					2008年度(平成20年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円未満	4	22.2%	4	22.2%	8	22.2%	4	22.2%	5	33.3%	9	27.3%
0円以上500万円未満	3	16.7%	4	22.2%	7	19.4%	2	11.1%	2	13.3%	4	12.1%
500万円以上1億円未満	0	0.0%	4	22.2%	4	11.1%	1	5.6%	0	0.0%	1	3.0%
1億円以上2億円未満	2	11.1%	2	11.1%	4	11.1%	2	11.1%	2	13.3%	4	12.1%
2億円以上	9	50.0%	4	22.2%	13	36.1%	9	50.0%	6	40.0%	15	45.5%
合計クラブ数	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%	18	100.0%	15	100.0%	33	100.0%

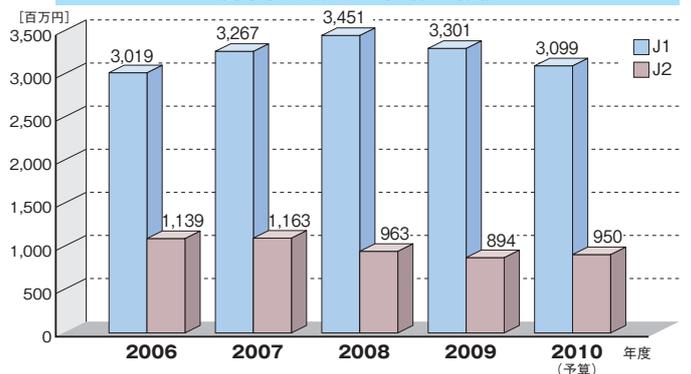
クラブ別借入金規模分布表

年度	2009年度(平成21年度)					2008年度(平成20年度)						
	規模	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
0円	6	33.3%	7	38.9%	13	36.1%	5	27.8%	4	26.7%	9	27.3%
1円以上500万円未満	0	0.0%	2	11.1%	2	5.6%	0	0.0%	2	13.3%	2	6.1%
500万円以上1億円未満	0	0.0%	4	22.2%	4	11.1%	0	0.0%	4	26.7%	4	12.1%
1億円以上2億円未満	2	11.1%	2	11.1%	4	11.1%	0	0.0%	1	6.7%	1	3.0%
2億円以上5億円未満	5	27.8%	2	11.1%	7	19.4%	4	22.2%	4	26.7%	8	24.2%
5億円以上	5	27.8%	1	5.6%	6	16.7%	9	50.0%	0	0.0%	9	27.3%
合計クラブ数	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%	18	100.0%	15	100.0%	33	100.0%

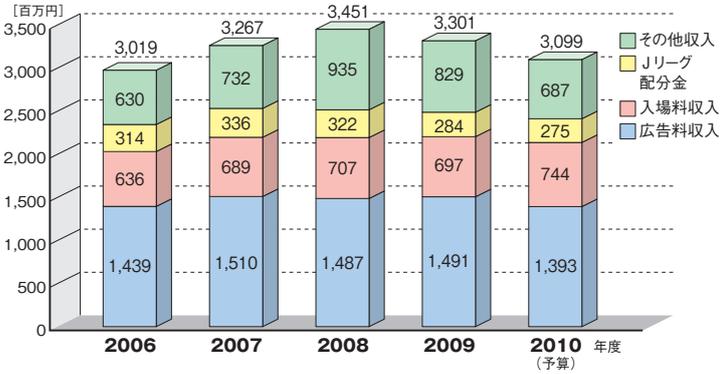
チーム人件費(監督・コーチ・選手)／売上高比率分布表

年度	2009年度(平成21年度)					2008年度(平成20年度)						
	人件費比率	J1	割合	J2	割合	全体	割合	J1	割合	J2	割合	全体
40%未満	3	16.7%	7	38.9%	10	27.8%	2	11.1%	4	26.7%	6	18.2%
40%以上50%未満	6	33.3%	9	50.0%	15	41.7%	8	44.4%	8	53.3%	16	48.5%
50%以上	9	50.0%	2	11.1%	11	30.6%	8	44.4%	3	20.0%	11	33.3%
合計クラブ数	18	100.0%	18	100.0%	36	100.0%	18	100.0%	15	100.0%	33	100.0%
平均比率		49.1%		47.6%		48.8%		48.0%		46.4%		47.7%

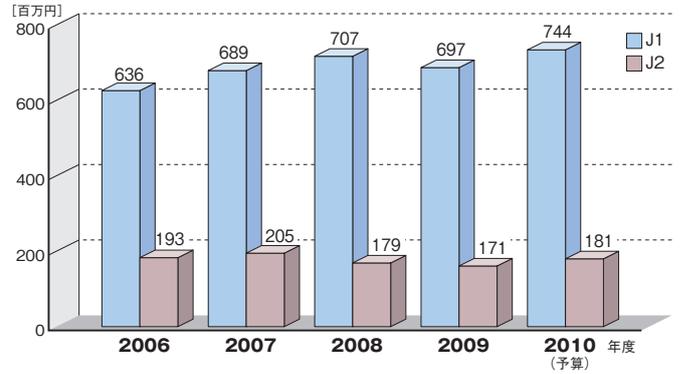
営業収入(クラブ平均)の推移



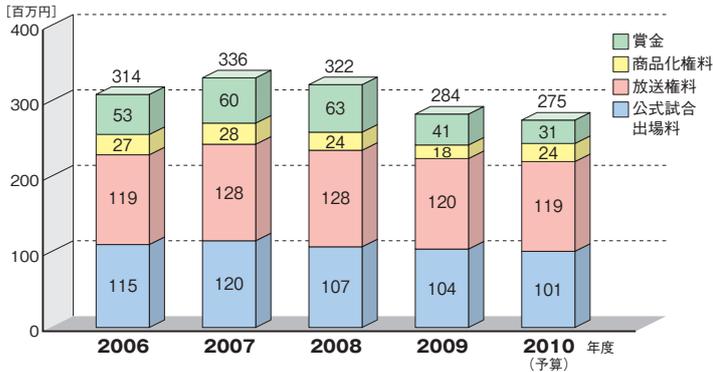
営業収入内訳の推移 (J1クラブ平均)



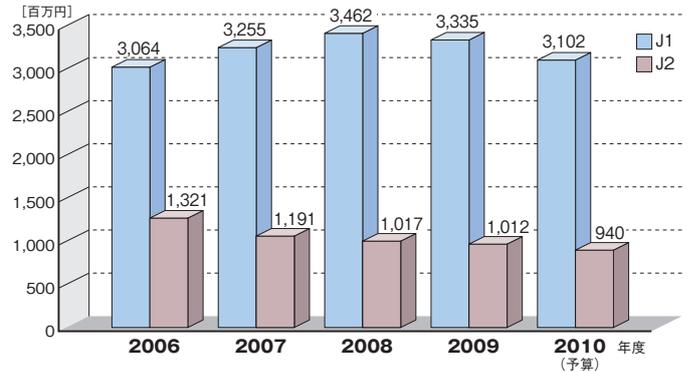
入場料収入(クラブ平均)の推移



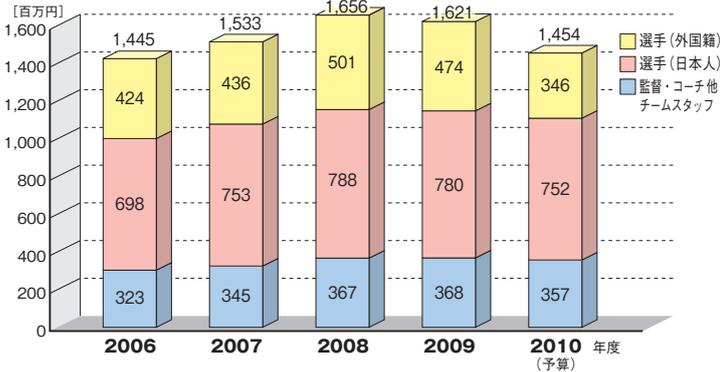
Jリーグ配分金の推移 (J1クラブ平均)



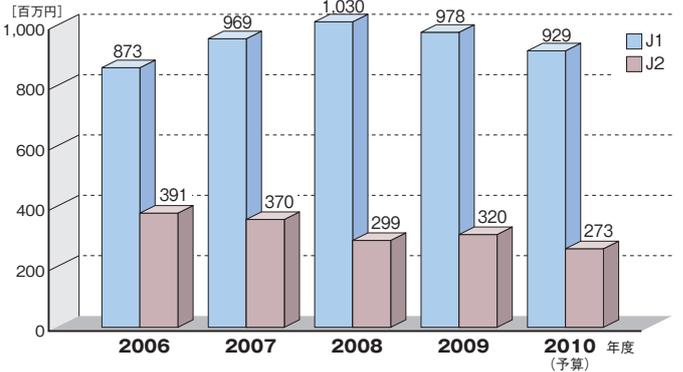
営業費用(クラブ平均)の推移



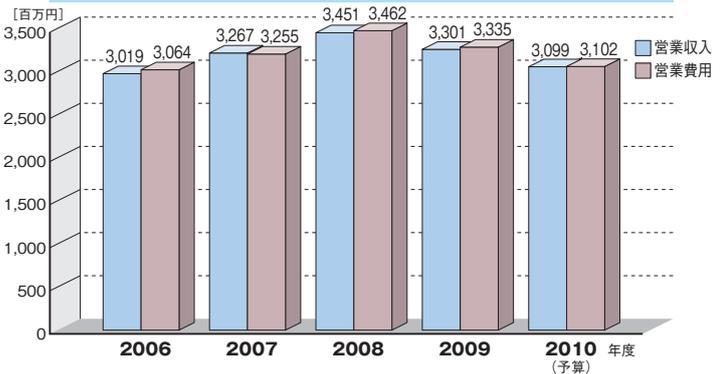
選手等人件費の推移 (J1クラブ平均)



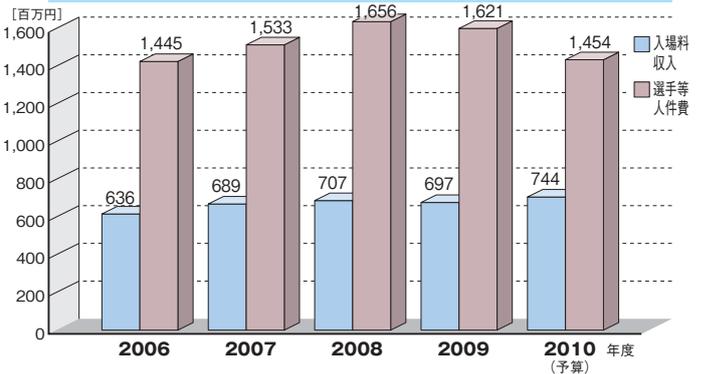
物件費(クラブ平均)の推移



営業収入と営業費用の推移 (J1クラブ平均)

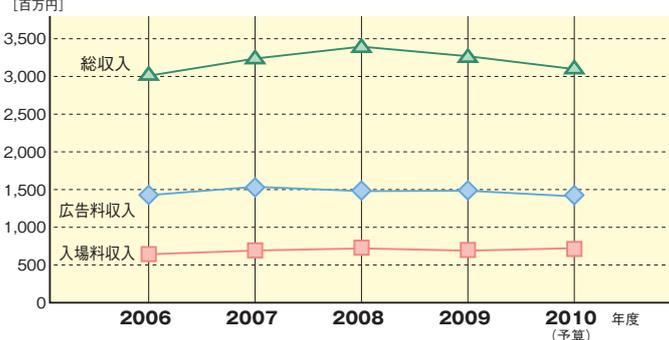


入場料収入/選手等人件費 (J1クラブ平均)



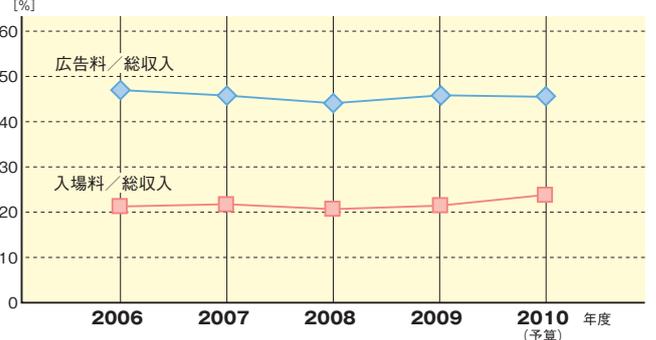
Jクラブ収入構造の変化1 (J1クラブ平均)

広告料収入・入場料収入・総収入推移



Jクラブ収入構造の変化2 (J1クラブ平均)

総収入に対する広告料収入・入場料収入の割合推移



2009年度Jクラブ個別経営情報開示資料

(単位:百万円)

クラブ名	J1																			J1総額	J1平均	
	山形	鹿島	浦和	大宮	千葉	柏	F東京	川崎F	横浜FM	新潟	清水	磐田	名古屋	京都	G大阪	神戸	広島	大分				
決算期	2010年1月期	2010年1月期	2010年1月期	2010年1月期	2010年1月期	2010年3月期	2010年1月期	2010年1月期	2010年1月期	2009年12月期	2010年1月期	2010年3月期	2010年1月期	2009年12月期	2010年1月期	2009年12月期	2010年1月期	2010年1月期				
■経営成績																						
営業収入	1,163	4,408	6,432	3,553	2,683	2,859	3,763	3,604	3,505	2,418	3,514	3,422	4,506	2,416	4,078	2,446	2,728	1,915	59,413	3,301		
(広告料収入)	194	1,655	2,735	2,396	1,432	1,763	1,357	1,829	1,322	853	1,226	1,943	2,068	1,515	1,731	715	1,364	736	26,834	1,491		
(入場料収入)	339	774	2,461	379	605	474	828	626	846	822	665	511	771	419	588	421	545	470	12,544	697		
(Jリーグ配分金)	252	507	336	220	219	209	375	393	263	229	299	225	251	227	371	228	280	221	5,105	284		
(その他)	378	1,472	900	558	427	413	1,203	756	1,074	514	1,324	743	1,416	255	1,388	1,082	539	488	14,930	829		
営業費用	1,136	4,303	6,358	3,546	3,036	2,930	3,731	3,543	3,505	2,470	3,378	3,395	4,485	2,596	3,939	2,722	2,708	2,242	60,023	3,335		
(事業費)	948	3,253	5,595	3,090	2,602	2,412	2,939	3,029	2,733	1,975	2,797	2,684	3,947	2,216	2,993	2,273	2,263	1,905	49,654	2,759		
内 選手・チーム スタッフ人件費(注)	569	1,913	2,464	1,954	1,552	1,580	1,768	1,951	1,165	1,038	1,378	1,582	2,350	1,503	2,215	1,545	1,313	1,345	29,185	1,621		
(一般管理費)	188	1,050	763	456	434	518	792	514	772	495	581	711	538	380	946	449	445	337	10,369	576		
営業利益	27	105	74	7	▲353	▲71	32	61	0	▲52	136	27	21	▲180	139	▲276	20	▲328	▲611	▲34		
経常利益	27	111	68	6	▲359	▲55	22	11	0	66	143	42	39	▲243	132	▲536	24	▲324	▲826	▲46		
当期純利益	27	32	6	0	▲638	▲55	20	6	▲36	89	71	4	4	▲248	39	▲538	12	▲616	▲1,821	▲101		
■財政状態																						
総資産	286	2,471	1,890	661	1,519	466	951	1,097	739	1,007	1,062	1,011	1,072	1,154	1,188	1,441	786	543	19,345	1,075		
総負債	236	684	1,316	650	948	685	347	566	860	702	497	884	491	1,131	1,015	2,247	440	1,710	15,411	856		
純資産 (山形は 正味財産)	49	1,787	574	11	572	▲219	604	531	▲121	305	564	127	580	23	173	▲806	346	▲1,167	3,934	219		
資本金 (山形は 基本財産)	0	1,570	160	100	490	22	1,003	349	31	712	550	679	400	3,605	10	98	2,110	469	12,358	687		
繰越利益剰余金	49	70	414	▲329	▲308	▲241	▲399	151	▲159	▲408	14	▲551	180	▲3,582	163	▲1,465	▲1,764	▲1,704	▲9,868	▲548		

クラブ名	J2																			J1・J2 総額	J1・J2 平均	
	札幌	仙台	水戸	栃木	草津	東京V	横浜FC	湘南	甲府	富山	岐阜	C大阪	岡山	徳島	愛媛	福岡	鳥栖	熊本				
決算期	2009年12月期	2010年1月期	2009年12月期	2010年1月期	2010年2月期	2010年1月期	J2総額	J2平均														
■経営成績																						
営業収入	1,548	1,529	413	580	536	888	966	1,066	1,094	610	420	2,241	639	759	503	1,006	676	616	16,090	894	75,503	2,097
(広告料収入)	561	427	108	238	221	147	532	372	497	342	115	1,252	230	436	165	424	278	309	6,654	370	33,488	930
(入場料収入)	355	541	71	113	84	169	151	191	293	79	71	278	138	30	61	201	174	75	3,075	171	15,619	434
(Jリーグ配分金)	118	142	102	102	116	103	108	105	119	103	104	122	103	102	118	103	110	115	1,995	111	7,100	197
(その他)	514	419	132	128	115	469	175	398	185	86	129	589	168	191	159	278	114	117	4,366	243	19,296	536
営業費用	1,683	1,651	399	627	550	2,342	966	1,178	1,080	586	464	2,319	614	771	502	1,119	755	613	18,219	1,012	78,242	2,173
(事業費)	1,437	1,428	293	489	395	2,021	767	912	790	442	327	1,650	398	554	352	872	560	466	14,153	786	63,807	1,772
内 選手・チーム スタッフ人件費(注)	699	711	163	247	182	1,044	330	618	498	168	156	1,085	191	342	203	479	313	226	7,655	425	36,840	1,023
(一般管理費)	246	223	106	138	155	321	199	266	290	144	137	669	216	217	150	247	195	147	4,066	226	14,435	401
営業利益	▲135	▲122	14	▲47	▲14	▲1,454	0	▲112	14	24	▲45	▲78	25	▲12	1	▲113	▲79	3	▲2,130	▲118	▲2,741	▲76
経常利益	▲25	▲95	14	▲48	▲13	▲1,457	1	▲112	2	24	▲56	▲81	21	28	2	▲108	▲66	4	▲1,965	▲109	▲2,791	▲78
当期純利益	▲42	▲98	6	▲49	▲13	1	0	▲115	0	13	▲56	▲84	21	21	1	▲109	0	3	▲500	▲28	▲2,321	▲64
■財政状態																						
総資産	1,022	623	89	126	150	453	381	521	463	185	122	622	261	517	245	463	233	108	6,584	366	25,929	720
総負債	1,001	232	107	66	170	444	373	520	253	46	255	455	187	106	32	409	176	211	5,043	280	20,453	568
純資産	22	390	▲18	60	▲20	10	7	1	210	139	▲133	167	74	411	212	54	58	▲103	1,541	86	5,475	152
資本金	795	453	52	243	186	89	344	524	367	97	111	315	76	409	209	125	455	150	4,999	278	17,357	482
繰越利益剰余金	▲774	▲63	▲145	▲224	▲234	▲79	▲451	▲678	▲157	14	▲354	▲148	▲16	2	4	▲267	▲702	▲253	▲4,527	▲251	▲14,395	▲400

(注) 含まれる項目
 ・監督・コーチおよび他のチームスタッフ人件費(アカデミーを含む)
 ・選手人件費(報酬の他、支度金、移籍金償却費を含む)
 ※熊本の決算期間は2009年3月1日～2010年1月31日

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

1

大宮アルディージャ



お互いにメリットを出しながら、地域に身近なクラブへ期待が高まる

ビジネスチャンスの拡大

大宮アルディージャは2008年2月に、埼玉県内に本社や事業所などの拠点を置くスポンサー企業を中心に、「アルディージャビジネスクラブ(ABC)」を発足させた。当初は45社だったABCだが、3年目の現在の会員社は78社に増え、企業情報の交換会や会員間の事業の連携へ拡大している。

アルディージャは、2年後に地元のさいたま市西区に計画している新しいクラブハウス建設の準備段階から、ABCと一緒に参考となるクラブを見学。建設もABC内の企業に発注にすることを表明した。経済的側面からも、地域にとってアルディージャの存在は大きなものになっている。

観戦チケットの印刷を請け負うことから関係が始まり、事業が継続していく中でスポンサーとなった望月印刷株式会社の高田純一代表取締役社長は「会員同士の話の中からビジネスマッチングできる場所がいい」とABCの意義について語った。



高田純一氏

高田社長の発案で、ABC会員の業務内容を紹介する冊子を作り、会員内でお互いにより多くのビジネスチャンスを増やす準備を進めている。「それを足掛かりに、さらにチーム支援でお返ししたい」と抱負を述べた。ABC会員が、取引企業をABCに紹介し、ク

ラブとも密接な関係を築いていく、という好循環も見られるという。「クラブが家族的で地元志向なので、地元も協力しようと思えてくる」と高田社長は好感を示している。

参加型の街おこしイベント

アルディージャと地元商店街と一緒に盛り上げようと活動を進めている人物がいる。大宮駅東口の大宮銀座商店街協同組合の栗原俊明理事長だ。商店街組合の会合にアルディージャのホームタウン担当者が招かれていたことから、栗原理事長とクラブの付き合いが始まった。



栗原俊明氏

栗原理事長は、芝浦工業大学大宮キャンパスの建築科に所属する学生の「街づくりプログラム」をサポートしている。彼は、縁があるクラブと商店街と学生が協力し合うクリスマスイベントを企画し行った。地域の人やファン・サポーターが商店街の協力店で買い物をすると、店舗からアルディージャの選手の写真をプレゼントされる。その写真は、学生が制作したイルミネーションの一部として飾ることができるという、参加型の街おこしイベント。街がアルディージャカラーで彩られた。

約1万5000人もの入場者を集めることができる地元のJ1クラブを商売のコンテンツにし、大宮の盛り上げと近隣の商店街を巻き込んだ活性化について「組合に働き掛けを強めて、お

互いにメリットを出していきたい」と意気込みを語ってくれた。

地域に根差したアカデミー活動

選手育成についても、地域に根差すことを基本としたアルディージャならではの特徴がある。アルディージャのジュニアチームには、一部、公募によるセレクションはあるものの、大半は地元(大宮、与野、岩槻などさいたま市北部地区)の32チームから推薦された子どもたちが集まる。

さいたま市北部少年サッカー指導者協議会の大沢元彦理事長は「アルディージャと相談した結果、地域と協力して育成するという方針になった」と語る。地元チームの頂点がアルディージャのジュニアチームとなったことで、発足から4年にして今年と昨年の2回、全日本少年サッカー大会の埼玉県代表となっている。



大沢元彦氏

地元チームの指導者がアルディージャの指導マニュアルを利用して子どもたちを育成するなど、「大宮アルディージャなしでは、この地域の少年サッカーは考えられなくなっている」と大沢理事長は話す。地域からトップチームへ選手が輩出することで、さらに地域に身近なクラブとなることへの期待は高まっている。

(共同通信社 佐藤 恵)



商店街のバナー。クラブが地域に根差していることを示す一つの例だ



大宮のジュニアチーム。地域のチームの協力もあって、目覚ましい成長、活躍を見せている

Jリーグニュースでは146号(2008年3月28日発行)から165号(09年10月30日発行)にかけて「スポーツでつくる幸せな国『Jリーグ百年構想』へのアプローチ」と題し、Jクラブによる地域に根差すためのさまざまな取り組みを連載した。では、こうしたJクラブの存在、活動に刺激を受けたり、触れるなどして、地域とそこに暮らす人々はどのように変わったのか。新たなシリーズでは、Jクラブと手を携えながら共に歩む人々や、その活動を紹介。第1回となる今回は、大宮アルディージャ、川崎フロンターレにスポットを当てた。



2

川崎フロンターレ



「明るい社会の創造」で方向性が一致。クラブの柔軟な姿勢と人々の達成感



© J.LEAGUE PHOTOS

クラブと、それを支援する人々によって、川崎市を愛する気持ちがはぐくまれた

川崎市の象徴となるように

クラブカラーのサックスブルーに染まったスタンドの大声援、家族連れの笑顔。緑のピッチ上ではスピーディーな攻撃サッカー。川崎フロンターレのホームスタジアム、等々力陸上競技場には、Jリーグが理想とする要素がいくつも詰まっている。

平均入場者も、J1に復帰した2005シーズンの1万3658人から右肩上がりに伸び、昨シーズンは1万8847人。今シーズンも第19節まで1万9247人を記録。チームも期待に応え、昨シーズンまでの4年間でリーグ戦2位が3回、AFCチャンピオンズリーグでも07、09年に8強入りするなど、「川崎」の名を国内外に広めた。

順調というより、急速ともいえる成長に、「J1の中でも強豪と呼ばれる位置にいるのは、不思議な感じがします。まだ、慣れていないんでしょう」と笑うのは紀中靖雄氏。01年以来、さまざま



紀中靖雄氏

な側面からクラブを支援し続け、活動を共にしてきた。自らは産業用ロボットの部品を製作する会社の経営者だ。

紀中氏と川崎Fの出合いは9年前だった。川崎Fが川崎市の青年会議所(略称:JC)の創立50周年記念を冠した試合を行った際、JCのメンバーとして初めて観戦した。だが、チームはJ1から降格した直後のシーズン

で、平日の夜、大雨という条件も重なり、入場者はわずか1,169人。「選手たちの覇気とスタンドの応援がマッチせず、『このままではだめだ』『何とかしないと』の声が上がった」と振り返る。

川崎市といえば、それまでもプロ野球の球団などが本拠地とした前例があったものの、定着しなかった。しかし、政令指定都市としてこれではいけない、という危機感も生まれ、スポーツを通じた街づくりへの機運が高まった。紀中氏は「大前提はJ1昇格だったが、たとえJ2に降格しても川崎市の象徴となるような存在にするには、どうすべきか」という議論が多かったと、当時を思い起こす。行政側の窓口が04年に教育委員会から市民局に変わったのに伴い、その外郭団体的に「川崎フロンターレ連携・魅力作り事業実行委員会」が創設され、紀中氏が委員長を務めることになった。

同年には全国のボランティア、自治体の関係者が集まる「全国ホームタウンサミット」を誘致し、実行委員長としてホームタウンのアピールに尽くし、「等々力陸上競技場の全面改修を推進する会」の事務局長となった08年からは、「クラブと行政の橋渡し役」(紀中氏)として一つの夢の実現に向けて奔走している。

クラブを取り巻く人々の熱意

ほとんどサッカーとは無縁だったという紀中氏が「家庭、会社の経営、そして川崎Fが生活の三本柱」と言い切るほど、クラブの活動に肩入れするようになったのはなぜだろうか。

それには「明るい豊かな社会の実現」を目標に20~40歳のメンバーが活動するJCでの経験が関係していると思う。JCのメンバー時代に、「スポーツを通じた明るい社会の創造」を理想の一つに掲げるJリーグのクラブと出合った。

同じ方向を向いた組織が手を携えて進むのは、自然の流れだったろう。

さらに、こうした人々の「やる気」を引き出す上で、クラブの柔軟な姿勢も忘れてはならない。紀中氏は「武田(信平 代表取締役)社長の考え方もあるのだろうが、割と自由にやらせてもらっている」と語り、「事業でもそうだが、自分が携わってできたときの達成感、仲間と力を合わせて達成したときの喜びは、お金に換算できない」と話す。

現在、最も力を入れているのは等々力陸上競技場の全面改修。署名活動にはクラブに熱い思いを寄せ、「何かをしたい」「何とかしたい」というファン・サポーターが200人以上も協力し、「何でそこまで頑張れるの」と紀中氏も驚くほど、精力的な活動を行い、約半年で22万もの署名を集めた。

川崎市は南部、中部、北部と、それぞれにカラーがあり、一体となったアイデンティティーが確立しにくい土地柄といわれた。それが川崎Fの応援を通して、少しずつ横のつながりが生まれてきた。安全で快適なスタジアムの実現は、世代を超えた未来へのつながりだ。「今の子どもたちが社会の中軸を担うようになって、スタジアムで観戦したいと思うような環境づくりは、われわれの責任」と、紀中氏は強調する。

クラブをいかにサポートしていくかについて、子供会、PTA、市サッカー協会、商工会議所、町内会連合会、商店街連合会、JCなどさまざまな団体が集い、年に4~5回の会議を行っているという。川崎Fは単なるエンターテインメントの対象としてだけでなく、川崎市を代表する象徴、なくてはならない存在となりつつある。紀中氏をはじめ、無償でクラブの活動に携わり、支援する数多くの人々の存在が、それを証明している。

(サッカージャーナリスト 石川 聡)



© J.LEAGUE PHOTOS

川崎Fの仕掛けるイベントはいつもユニーク。地域のさまざまな団体も協力を惜しまない

Youth Development

育成



「2010 Jリーグ U-12 フェスティバル」開催

Jリーグは8月3～27日の期間に、恒例となった「2010 Jリーグ U-12フェスティバル」を全国の6会場で開催した。12歳以下の子どもたちを対象に、ゲームの機会を提供するほか、社会性をはぐくむために自然体験をはじめとした総合学習体験や、リスペクト、フェアプレーの精神を養う場も設けている。

長野県の会場では、8人制ゲームを数多く行うのが特徴。スクール選抜で参加している選手たちで構成されたチームが、チーム意識、チームワークを高めることを目標にする。それが「社会性や人間力を身に付け、選手として、人間としての成熟につながる」(湘南ベルマーレ フットボールアカデミー 大森西三郎ディレクター)からだ。

このほか、一人では解決できないさまざまな課題を、仲間と力を合わせて達成しようというASE(社会性をはぐくむ活動体験)プログラム

の一環として、アドベンチャーハイキングや野外大運動会なども実施。豊かな自然と地元の人々の熱心な協力のもとで、充実した4日間を過ごした。



真剣な表情でボールを追う子どもたち(静岡県)



自然の中で普段はなかなかできない体験(宮城県)



ボールを落とさずゴールを目指す(長野県)



チームの別なくバーベキューを楽しむ(長野県)

U-13 Jリーグ選抜 海外キャンプを実施

Jリーグは8月1～6日にU-13 Jリーグ選抜チームによる韓国への海外キャンプを実施した。同チームの海外キャンプは、昨年に続き2回目。Jクラブのアカデミーに所属する選手を選抜し、国際試合の経験を通じて競技力向上の機会を与えるだけでなく、海外文化に触れ、現地の

人々との交流を通じて豊かな人間性をはぐくむことも目的としている。

現地ではKリーグに加盟するクラブのチームとの強化試合、トレーニングを行った。参加した大場飛明選手(川崎フロンターレ)は「海外のチームに通用する練習を積んでいきたい」と世

界を意識した感想を述べ、監督を務めたJリーグの上野山信行 技術委員長は「子どもたちは高いポテンシャルを持っている。技術のクオリティーが世界基準に近づくよう、各クラブでコーチングを行ってほしい」と、今後の指導へ期待を寄せた。



蔚山現代との強化試合



上野山監督の指示を聞く選手たち

【強化試合結果】

8月3日	U-13 Jリーグ選抜 16-0(前半7-0) 慶南FC
	U-13 Jリーグ選抜 7-0(前半3-0) 蔚山現代
8月4日	U-13 Jリーグ選抜 6-3(前半0-2) 釜山アイパーク
8月5日	U-13 Jリーグ選抜 5-4(前半2-3) 機張中学



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。